

磐城時報

石城郡磐城町十四番地
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
電話 二二二二
廣告料 一行十四字 一月五拾錢
訂費 一月一元 三月二元 半年三元 一年五元
代售處 各郵便局

學校職員の賞與金 あす残額を贈る

悟り開いた町當局

平町役場では昨年暮極度の財政般凱旋した勇士三十五名の歓迎難に陥り町立各學校職員に贈與方法について協議した結果二十三日年未慰勞金第一校九百圓第二校八百圓、第三校三百圓、平商業校四百圓の全額を調達する事が出来ず一部分を支持つたのみであつたが、財界不況の折柄でもあり第一校會我校長の如きは立替えて部下職員に全部を與へた等の事情もあり町當局でも感ずる處があり昨二十一日俸給日に残額を贈る事になつた。

貧困者救済の 寄附申込

植田人事相談所に左記諸氏は舊歲末の貧困救済資金として金品の寄附をなした。
▲十圓 石城郡錦村山野邊甫
▲五圓 同上 遠野村赤坂毅一
▲白米一俵 同 小澤光治、同水野一作、同 荒川熊藏、同 永瀬幸太郎、同 田村逸見光治

平窪村の山崩れに 工費六万圓を投ず

徹底的の改修を計劃し 縣山林課で實査

石城郡平窪村大字上平窪字大澤明瞭なので縣山林課では徹底的に地内の山崩れは昨年夏以下數回の工事を施す事となり目下技術運轉して起りその都度山麓を流る者が來郡實地調査中であるが、埋没するので小川江組合で復舊工事を待つてゐるが、姑息な工事では將來も被害が引續き越る事

罹災民救済

石城郡小

無銭で大暴れ

石城郡山田村大字富津農莊田一政(三八)は十七日午後十時頃植田町カフエー山田屋別館で懐中無一文で大豪遊を極め揚句の果て暴行を働いたので植田署に檢束されたが、此奴は自稱柔道二段で同町各料理店カフエー等の無銭飲食常習犯である。

警東銀行總會

植田町警東銀行の七十四回株主總會は廿三日午前九時から同行内に開催決算の承認を求むるが、今期配當は年二分四厘の割である
▲當期利益金二千七百二十九圓六錢
▲内譯二百圓法定準備金
▲一千八百八十圓退職給與基金
▲一千七百七十圓株式配當金
(但し舊株一株六十錢、新株十五錢) ▲一千五百七十九圓六

築港事務所技手宅を 警官數名で警戒

近く愈々收容か

巨費二萬餘圓を投じての小名濱兩日中に召喚状を發し起訴收容商港築港史上に汚点を残す大なる模様である。同氏は觀念の欺欺事件は舊冬未贈賄者側の鯨ぼそをかためたものか既に兩三川砂利採取會社久保田眞、高木日前から小名濱町の自宅で行行李拂下げを取急ぎ實現せしむべく武士の兩氏が起訴收容されて同取まごめ中だといはさるれ逃走築港事務所長高等官三等内務技師榎木篤夫氏の收賄事實を裏書數名を同氏宅附近に張り込ませ警戒中である。

元村長の 詐欺横領の件

双葉郡長塚村元村長長江口榮治、助役安井實兩名にかゝる詐欺横領事件は平支部豫審係に於て審理中であつたが、一兩日中に終結する模様である。

背に腹はかへられず 持米を手離す農民

舊歲末にある石城郡下農村は目益々先安を豫想されるに至つ下盛んに持米を手離してゐるのたが、減收、災害低落のうき目で毎月生欠伸をかみ殺してゐたにあつた農村目下の窮狀は安値状態の平穀物檢査所及び各出張を持ち堪えて當面の苦境を切り所も今月ばかりは轉手古舞ひを抜ける餘裕なく背に腹は換へられしめるが、九日來漸落を辿りれず餘儀なく持米を手離して居始めた相場は依然回復の模様なるわけである。

簡易水道完成し 植田町民大喜び

植田町小學校では從來飲料水が乏しく附近の民家から貰ひ水をしてゐるの不便な状態だつたので今回工費一千四百四十六圓を投じて簡易水道を新設することとなり豫てから工事中のこの程殆ど竣工した。

濱三郡の 政府拂下米

縣では災害地方が嚴寒の處へ舊年末を控へその日の食糧に窮するもの續出するのでこれが急速の救済の要ありとなし罹災町村から縣經由で申請してある政府米拂下げを取急ぎ實現せしむべく努力の結果その第一回の拂下げが、拂下げ額は一俵七圓五錢で石城郡内八ヶ町村二千二百一俵一萬四千八百七十五圓五十錢、双葉郡内三ヶ町村七百二十八俵五千三百三十二圓四十錢、相馬郡内八ヶ町村三千二百十俵二萬二千六百三十圓五十錢である、各町村別配給數量及び金額は次ぎの如し。

| 町 | 數量 | 金額 |
|------|-------|-------|
| 石城郡 | | |
| 町村 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 勿來 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 平 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 飯野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 内郷 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 江野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 大野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 上下小川 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 山田 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| ▲双葉郡 | | |
| 久之濱 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 清戸 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| ▲相馬郡 | | |
| 日立木 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 高平 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 太田 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 新高 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 真野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 大野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |
| 大野 | 二、一〇〇 | 二、一〇〇 |

フラジールより

昨年九月地方民から前途を祝福されてフラジールに移民として赴いた佐藤英雄(三二)君から左の如き通信があつた。
秋雨煙る神戸埠頭に皆様の

御熱誠なる御見送りを受けてなつかしい母國に別れた日から一ヶ月になりました。御陰様で私等は今アフリカ南端を元氣一杯に航行して居ります。出帆以來ほんとうに恵まれた航海です。船内は北海道の涯から琉球の涯迄の人々が乗つて居るで日本全土の縮圖かの感があります。小學校も開設されて居て、私はその方の御手傳を致して居ますので、何だかこう故郷にあつての生活の様な氣が致します。生徒は全部で二百三十人許りです。尋常一年から高等二年迄八學級に別れて面白く皆熱心に勉學を續けて居ます。今迄にシンガポール、コロネボ、ターパンの三ヶ所を上陸見物致しましたが、皆珍らしいものばかりです。日本の人力車はアフリカの南端に迄渡つて來て居ます。ターパンの車夫はとても珍妙な格好をしてゐるのに驚きました。頭には鳥の羽毛や長い牛の角を生やして恐ろしく一寸乗る氣になれぬ様です。何處の上陸地でも、上陸地以外の港でも感ずる事ですが、英人や佛人の勢力です。特に來る途中の港々が殆ど英國の勢力範圍です。これが若し日本のものであつたらうと思ふ者決して私一人ではありませぬ。

此の手紙を皆様が御覧になれる頃故國はもう雪の訪れに間もない時分です。どうも皆様御體を大切に大きくは御國のため學びの道に御いそしみの程御祈り申し上げます。
十月廿四日夜
りお九 佐藤英雄

人はいさ雄々しと言はめ恐と言はめ海路五千里とつ國に入る。南米の露の明け野に踏み立ちて雄々し男と我言はれなむ

明治生命 警城代理店 山崎與三郎

山崎合名會社

電話(營業部専用)一〇番
(一般用)四二七番
振替東京一九七五五番

豫告中の發賣品は

満腹 うれしん

でした。御一人前...十五錢で満腹

魚尾會堂

電話六三三番

二日市の景品は

左の通り御實行を希望します

一、現金にて買上の方に景品を呈する事
二、現金にて商品券買上の方にも同様に景品を呈する事

但し商品券にて品物を買上の場合には景品は差上げぬ事

昭和八年一月廿日

平商工會

各商店御中
御客様御中

平町田町(電話五二三番)

高久病院

醫學士 高久
新編醫學士 赤羽
藥劑士 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

タクシー界の寵兒

皆様の昭和!!

いつも新車にて御目見得致します

倍舊の御最負之御聲援願ひます

平驛前

昭和タクシー

電話三四三番

三河産業博覽會 金牌受賞

昭和产业博覽會

かまぼこ 製造

折詰仕出

儀式用

お惣菜用 さつま揚

平町一丁目

吉原揚

藤實

電話一四二番

心安積蓄 利低通融

三井無盡

許免臣大藏大

社會盡無用信本湯

番七四話電

專科 腸胃

內科 專科

十二指腸病 胃性病

婦人病 皮膚病

院醫科 腸胃 村松

【番七〇一話電】町南町平

大藏省允許

三井無盡

新法貯蓄

共同共栄

誠實堅実

かまぼこ

折詰仕出し

御惣菜用 さつま揚 吉原揚

平町二丁目

藤市蒲鉾店

電話三〇五番

急性慢性を問はず

淋疾は立派に全治す

(一)淋疾尿道炎、(二)消渴、(三)膀胱カタルには驚く可き効目がある

高級治淋新藥 トリップチン

特約店 大平屋藥店

電話六四二番

難波醫院

醫學博士 難波 睦

一内科 一般

平町大町新川端

電話(五〇二番)

耳鼻咽喉科 專

氣管食道科 門

病室完備：自炊の便あり

平町町南

大和田醫院

電話一七〇番